

令和7年5月10日（土）、京都市右京区～西京区において、関西慶應寮和会第26回定例懇談会が開催されました。集合時は曇天ながらも、次第に晴天となる中、計31名（会員21名、ご家族等10名）により実施に至りました。

＜出席者＞ 21名（会員のみ・敬称略）

寺沢（S38商） 笠原（S40法） 相本（S41法）  
 竹内（S41経） 酒井（S42法） 塙（S47文）  
 松尾（S47経） 三角（S49工） 青嶋（S52工）  
 袖岡（S55商） 山代（S55法） 松永（S58工）  
 阪本（S61商） 山岸（S61経） 小堀（S63商）  
 竹崎（H02法） 豊田（H03理） 茂木（H03商）  
 井内（H04商） 塚本（H04経） 宮崎（H16経）

今回は、修学院離宮・京都御所に続き、皇室関連施設企画の第3回目として、桂離宮を拝観しました。あわせて嵐山周辺へも訪れ、会員相互の親睦を図りました。

## I 第1部 嵐山散策（13:10～15:00）

インバウンドで賑わう京福電鉄嵐山駅に集合、まずは天龍寺を拝観しました。出席者の希望に応じ、天龍寺行きとその塔頭寺院の一つで・宝厳院行きの2班に分かれて、出発しました。

天龍寺は、日本で最初に史跡・特別名勝に指定された、臨済宗天龍寺派の大本山。後醍醐天皇を供養するために、室町初期に創建されました。開基（資金提供）は足利尊氏、開山（初代住職）は夢窓疎石（むそうそせき）。曹源池庭園は日本初の作庭家ともいわれる疎石の作庭とされ、嵐山・亀山を借景とした池泉回遊式庭園です。

宝厳院は、室町中期創建、開基は細川頼之、開山は聖仲永光禅師。嵐山を借景とした回遊式庭園は「獅子吼の庭（ししくのにわ）」と呼ばれ、春秋の特別拝観期間にのみ参拝できる寺院です。

天龍寺からは法輪寺、宝厳院からは弘源寺へと、両班時間の許す限りそれぞれのペースで歩を進めながら、美しい初夏の青もみじを愛でる散策となりました。



天龍寺（書院から曹源池庭園を望む）



獅子吼の庭

## II 第2部 桂離宮参観 (16:00~17:00)

両班阪急嵐山駅で合流し、桂駅まで電車移動し、桂離宮に向かいました。

藤原道長の別業（なりどころ。別荘。）である桂殿が営まれていたという貴族の別荘地であり、観月の名所としても知られていた桂の地。

桂離宮は、17世紀初めから中頃までの間に、八条宮家初代智仁（としひと）親王と二代智忠（としただ）親王の手によって、当地に造られました。

和歌に堪能であり造庭の才にも優れた智仁親王、その影響を強く受けた智忠親王、親子の美的感覚を集大成した池泉回遊式庭園は、日本庭園として最高の名園と言われています。

月並みな表現ではありますが、どこから見ても絵になる庭園。書院を始め、灯籠、手水鉢、飛び石、襖の模様、さらには動線に至るまで、計算し尽くした両親王の美意識が表されています。

そして、単なる庭の鑑賞のみならず、月見台からの観月、池での舟遊び、茶屋での茶会・酒宴など、さまざまな遊興や行事の場として、要求される機能の全てを有しています。

なお当地は、度重なる戦火や火災の被害を奇跡的に免れているため、江戸時代初期創建当時の姿が今日に伝えられています。加えて周辺農地も買い上げられ、景観保持の備えにも万全が期されています。

その幸運と尽力に感謝しつつ、眼福の1時間を過ごしました。



日本庭園の傑作

月並みな表現ではありますが、どこから見ても絵になる庭園。書院を始め、灯籠、手水鉢、飛び石、襖の模様、さらには動線に至るまで、計算し尽くした両親王の美意識が表されています。

そして、単なる庭の鑑賞のみならず、月見台からの観月、池での舟遊び、茶屋での茶会・酒宴など、さまざまな遊興や行事の場として、要求される機能の全てを有しています。

なお当地は、度重なる戦火や火災の被害を奇跡的に免れているため、江戸時代初期創建当時の姿が今日に伝えられています。加えて周辺農地も買い上げられ、景観保持の備えにも万全が期されています。

その幸運と尽力に感謝しつつ、眼福の1時間を過ごしました。



月波楼（げっぱろう）から望む  
松琴亭（しょうきんてい）



雪見灯籠



園林堂（おんりんどう）

### Ⅲ 第3部 懇親会 (17:30~19:30)

見学の後は、「イタリア料理 Kitchen Caponata (カポナータ)」(京都市西京区)に今しばらくの歩を進め、懇親会が開かれました。

青嶋会長からの挨拶に続き、遠路福島からお越しの笠原さん、関西に単身赴任となった塚本さんの初参加者2名より近況報告をいただき、珍しくご家族・ご友人を交えた、楽しい酒席となりました。

### Ⅳ 編集後記

桂離宮の「創建当時の姿」は、日頃の維持管理もさることながら、1976年から6年間にも及ぶ修復工事を経て取り戻されたものでもあります。

創建後(当時)おおよそ350年目にして初めての大修理。NHK「プロジェクトX 挑戦者たち」にも取上げられた国家的事業は、棟梁、左官、庭師、さらには研究者と、専門分野が異なる人々によって、美しさを保つ形で成し遂げられました。

創建自体は両親王の知性に負ったところが大きいのに対し、その再建には「集団的知性」が不可欠であったという対照的な事実、これは非常に興味深いところだと思います。

私たち寮和会員も、日頃は各分野における専門家。博学多才であれば幸い、そこまでは至らずとも職能を磨き、何かを遺していきたいものです。本会の刺激がその一助になれば幸いです。

今回も皆さまお元気にお集りいただくことができました。次回もまた健康な姿で再会できるよう心より願っております。

今後も楽しく有意義な活動を続けていく所存ですので、これからもよろしくお願いいたします。



桂離宮参観を終えて全員で



以上  
懇親会後にもう一枚